

地域密着型通所介護光和堂 第8回運営推進会議

日時 令和5年10月16日(月) 11:30~13:15

場所 光和堂通所介護 介護室・漢方カフェ

出席者

別所寿亀クラブ老人会会長	A様
別所地区民生委員	B様
西区北部圏域包括支援センター三恵苑	C様
ご利用者ご家族	D様
ご利用者様	E様
光和堂代表	堀口
光和堂生活相談員	横山
光和堂介護士	森屋

1 当日の次第

- (1) 開催の挨拶
- (2) 出席者の紹介
- (3) 活動状況の報告
- (4) 出席者からの活動状況の評価、要望、助言等の聴取
- (5) 意見交換
- (6) 閉会の挨拶

2 活動状況の報告 堀口 横山

当日配布資料とスライドにより、堀口から光和堂の理念と方針、配布物の紹介、サービスの内容、利用人数の介護度、年齢など説明があった。機能訓練時に提供している漢方茶やおやつの効果、養生訓の音読効果についても詳しく説明した。その他、横山より運動の種目、運動効果など、機能訓練の内容、目的運動の継続による日常生活への好影響の実際など、具体的に現場状況等についても報告を行った。また、森屋より、脳トレの意義と状況を説明した。

3 出席者からの活動状況の評価、要望、助言等の聴取

C様・・・光和堂通所介護はいつも活気があり、参加者もいきいきとしている。本日サービス内容の説明を聞いて思ったのは「東洋医学の要素を取り入れているからこそ、自分の身体に向き合うことの重要性を通っている方一人ひとりが考える機会を得ている。」と感じた。同じ運動をしていますが、自分の身体にどのように影響しているのかがわかっているのと、そうでないのでは効果に大きな違いがある。ということが改めてわかった。長く通われている方も「光

和堂にくることで健康寿命を長く保つことができるではないか？」という期待があるのだと思う。引き続き活躍を期待している。

A 様・・・光和堂に用事があり訪れた際、皆さん笑顔で迎えてくれて嬉しく思う。現在老人会には43名が在籍しており、今後体操指導などの応援をお願いしたい。

B 様・・・民生委員をやっていると思うことは「居場所づくりが必要だ」ということ。コロナが始まって3年だが、運動や外出の機会、他者との交流は少なくなっている。以上の背景から、居場所づくりが必要だと考えている。光和堂を利用している方が、楽しそうに通っているのはとても良いことだと思う。漢方カフェ等も含め、地域の方にも広めていきたい。

E 様・・・養生訓の音読を繰り返しおこなっていく中で「ああ、そうだな、そうだな」と腑に落ちていくところが増えている。自然と良い事（養生）ができるようになってきているのかな？と思うようになっている。

D 様・・・現在母が光和堂を利用している。母はこの3年間のコロナ禍により、外に出られない生活を送っていた。久しぶりに母に会いにいった際、座った状態から立つことができなくなっていた。その時「高齢者は、3年でこんなにも体力が低下してしまうのか」と驚いた。横山さんに相談し、光和堂に参加するに至った。まだ二回しか参加していない為、光和堂に通う楽しみまでは見出せていないようだが…「元気になりたい」という気持ちや「光和堂に行くのが楽しい」と感じてもらえるようになったらいいなと思っている。

堀口・・・光和堂通所介護は、お陰様で開設約20年になる。残念ながら、亡くなられた方も多くいらっしゃる。私たちはそういった方々を送り出し、遺されたご家族とも話をしてきた。突然亡くなった方の場合「迎えに行ったら亡くなっていた」というケースもある。いわゆるピンピンコロリの実践ができているのかなと思う一方で、不安になることもある。「家族の方は気持ちの覚悟ができてないのではないかな？ 光和堂のサービスで良くないところがあったのではないかなど?」。しかし、ご家族の方とお話しすると「ありがとうございました」と言ってもらえてホッと安心する。東洋医学を勉強して、これを基本とし皆さんが心から元気になり、意欲を出してもらいたい。「光和堂にいきたい」と思ってもらえる場所を目指して、これからも頑張っていきたい。

4 まとめ 堀口

地域の皆様やケアマネージャーさん、さらに弊社スタッフの協力により、通所介護が

運営できており、皆様方に深く感謝申し上げます。今後も高齢者の社会参加や交流に協力して、高齢者の孤立を防げ、自立できるようにお手伝いしていきたい。今回開催場所として使用した薬局内にある「漢方カフェ」スペースを、今後地域の皆様にご利用して頂きたい。